

早生系タマネギF1037の特性

砂川喜信・小禄博明¹⁾

(県農研センター宮古島支所, ¹⁾県農研センター)

はじめに

現在の主流品種である F50 は他品種より品質面で優れているが、分球率が高い欠点がある。分球したタマネギは単価が安く、収益低下の主要因であるため、F50 に変わる早生系で分球率の低い品種の選抜試験を実施し、選抜した優良品種・系統の栽培特性等を明らかにした。

材料及び方法

1)栽培試験

1)栽培概要

(1)供試品種 F-50 (対照), F1037 (2)播種・定植: 9月下旬・11月上旬

(3)栽培様式: 畦幅 160cm 株間 12cm 条間 14cm 4条 機械植

(4)施肥: N: 19.8kg, P₂O₅: 31kg K₂O: 18.8kg 牛糞堆肥: 3,000kg

2)食味官能試験

F50 と F1037 の 2 品種で、臭み・甘み・辛み・食感・総合の 5 項目を下表にそって 5 段階評価したたものを、点数に換算して合計点で比較。調査人数: 28 名

| 調査項目 | 評価方法 |
|----------|--------------------------|
| 臭み・甘み・辛み | かなりある(5点)~ほとんど無い(1点)の5段階 |
| 食感 | かなり良い(5点)~悪い(1点)の5段階 |
| 総合 | おいしい(5点)~おいしくない(1点)の5段階 |

3)種子発芽試験

(1)試験1: シャーレでの発芽試験(インキュベーター使用)

F50 と F1037 のコーティング種子使用し、種子径以上の根の伸長を発芽の基準とした。

(2)試験2: 発芽揃い試験(インキュベーター使用)

F1037 コーティング種子: 288 穴トレイ・与作培土を使用(農家慣行)

結果及び考察

F1037 の 3 年間の分球率は、年による変動はあるものの F50 と比較してかなり低い(表 1)。また、F1037 の 3 年間の商品化収量(分球除く)は、F50 より常に高く、反収 4 トン以上で推移した(図 1)。

F1037 の規格別割合は、F50 と比較して 2 L 球以上が多く、大玉系統である(図 2)。

感応試験の結果、F1037 は、F50 と比較して、わずかに辛みが強いが、臭み・甘み・食感等には差はなく、総合的には同等である(表 3)。

発芽率は F1037 及び F50 どちらも同じ傾向で、温度が 20 ~ 30 の範囲においては、温度が高いほど発芽率が悪くなった(表)。

以上のことより、優良系統 F1037 の分球率は非常に低く、大玉系統であることから、分球率の低下と増収により、所得向上につながる可能性が高い。さらに、発芽適温が分かった

ことから，早期播種による出荷の前進化の可能性が高まった．

[具体的データ]

表1、3年間のF50とF1037の分球率の比較 単位:%

| | H14 | H15 | H16 |
|-------|------|------|------|
| F50 | 23.3 | 24.0 | 72.9 |
| F1037 | 2.8 | 0.0 | 16.7 |

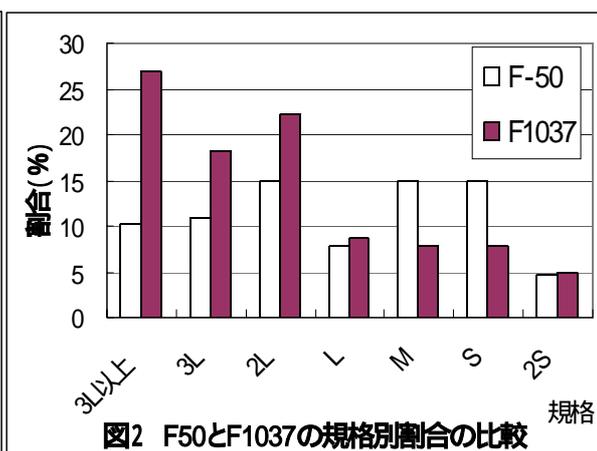
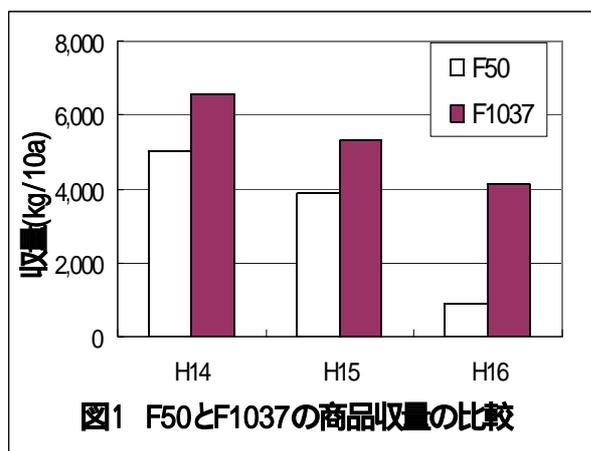


表2 食味感応試験結果

| | 臭み | 甘み | 辛み | 食感 | 総合 |
|-------|----|-----|-----|----|----|
| F50 | 78 | 96 | 86 | 97 | 99 |
| F1037 | 84 | 103 | 106 | 96 | 92 |
| | ns | ns | * | ns | ns |

* p < 0.05 Mann-WhitneyのU検定

表3、温度が種子発芽に与える影響

| 発芽率 | 20 | 25 | 30 |
|-------|-----------------|----|----|
| | % | % | % |
| F1037 | 94 | 88 | 12 |
| F50 | 88 | 85 | 43 |
| 試験日 | 平成17年10月14日~17日 | | |

